

協働実践研究会 KL 活動報告

2018年8月24日に研究会KLで活動を行いました。これは、日程等の関係で、マレーシアから日本に戻った木村（元マレーシア支部代表）が活動内容やグループを絞って行ったので分科会と命名しました。実施したのは、ピア・カンファレンス（授業検討会）と実践の持ち寄りです。

- 日時：2018年8月24日（金）
- 参加者：語学学校教師5名（うち日本語教師4名）、JLSM（日本語協会）教師1名、日本の大学からのインターンシップ生2名、大学教員2名、計10名
- 場所：A to Z 語学センター
- プログラム：
 - 1) 木下瑞紀先生、木本彩華先生の授業見学：14.15-15.00
 - 2) 学生プレゼンテーション：15.00-15.30
 - 3) 授業検討会:15:55-17:15
 - 10名全員で自己紹介（うち授業提供者2名）
 - 授業のフィードバック（①授業提供者自身で、②仲間で）
 - 授業アイデア交換
 - エドワード先生、北出理恵先生の実践紹介

今回勉強会を実施したA to Z 語学センターの日本語教師は全員日本人の方です。そのため、研究会参加者は8人が日本人でマレーシア人の先生はA to Z以外の機関の先生とマレーシア語の先生のお二人だけという構成になりました。

はじめてローカルの現場を訪問しての勉強会でした。外部から参加した教師にとって、自分の所属機関とは違う現場の様子が見られるいい機会となりました。また、外部からの参加教師、A to Zの教師どちらにとっても、教師の「生の声が聞ける貴重な機会だった」というコメントが事後アンケートにあがっていました。



（写真）ピア・カンファレンス風景

たとえば、アンケートの回答には「参加教師がほとんどマレーシアで教える経験があり、お互いに経験や意見を交換しながらいい勉強になれると思います。もちろん、海外の講師が来てくださったり新しい情報を得たり、違う見方を学んだりできると思います。（原文ママ）」

というコメントがありました。このコメントを見て、改めて次のことを考えました。参加教師の中には、日本に帰った／行った時に勉強会に参加する教師もいます。また、日頃日本で活動している講師がマレーシアに来てセミナーを開催しています。しかし、今回のスタイルの勉強会は、マレーシアをよく知っている教師たちが、マレーシアでしかできない勉強会をやったのだということです。「また、来年を楽しみしている」という声もありました。分科会にしろ、隔年でやっていたワークショップにしろ、続けていきたいものです。

最後に、授業見学後、AtoZの学生は、外部から参加したマレーシア人教師にマレーシア人教師ならではの鋭い指摘をもらい「しゅんとなった」ということです。それもまた、いつもとは違う刺激で、いい勉強の機会になったことでしょう！

文責：木村かおり（早稲田大学大学院助手）